



2010年 年頭所感

医療法人社団吉徳会 あさぎり病院 院長

野原 当 ● のはら・あたる



新年明けましておめでとうございます。平成22年年頭にあたり所感を述べさせていただきます。

平成21年は世界も日本も政治的な変化の年でした。アメリカでは黒人初のオバマ大統領が就任し、日本では自民党から民主党への政権交代がありました。しかし世界の不況は回復の兆しがなく、日本においても先が見えない状況です。

この社会情勢の中、平成21年の医療法人吉徳（よしとく）会あさぎり病院は「前進」というスローガンの元に診療を行いました。過去最高人数となる外来受診と手術件数となり、お産の件数も平成16年から6年連続1,000件以上です。また平成21年8月に「あさぎりこどもクリニック」をオープンすることができました。

医療法人吉徳会は、昭和45年に「私立朝霧病院」（病床32、診療科目8）としてスタート。増床、診療科目の整理を経て、平成元年に医療法人社団吉徳会を設立し「あさぎり病院」に名称変更しました。その後、病床を99床に増床するなど拡大発展の方向を目指していましたが、専門特化した特徴ある病院として運営するという方針に転換して病院機能評価認定や電子カルテ導入など、質の向上を目指して進んできました。

当院眼科は一次診療施設の長所と高次診療施設の長所を併せ持っているのが特徴です。患者さんがかかりつけ医と

して最初に受診される病院であり、高度な治療にも対応しています。また症状が固定した弱視の患者様のケアにも力を入れています。平成22年はさらに手術件数、外来患者数が増える予想されています。

産婦人科では、アメニティも医療も高いレベルでバランスをとるよう努力しています。産科だけでなく腹腔鏡など婦人科手術も対応しています。お陰様で妊娠されたら非常に早い時期に病院に受診いただかなければお産の予約ができない状況となっております。

総合診療科（内科、外科）でも外来患者数増加傾向にあり、胃カメラ、大腸ファイバーなど内視鏡を中心とする検査が非常に多くなっています。検診の充実とともに外来患者数がさらに増加するものと思われます。

このように平成22年はさらに外来患者数、手術件数、分娩件数が増加することが見込まれています。日々の診療をさらに効率よくして医療の質と安全性の向上に努める必要があることから平成22年の吉徳会のスローガンを「見直し」とすることとしました。このスローガンのもと日々の業務の中で改善すべき点を見直して、より良い医療提供を病院職員一同が目指します。よろしく願い申し上げます。

理 念

— 人にやさしい医療を目指して —

1. 吉徳会は、患者様が尊厳ある人生を送ることができるよう、安全な医療サービスを提供する使命があると考えています。
2. 吉徳会は、患者様中心の医療、保健、福祉を快適に受けられる場所でなければならないと考えています。
3. 吉徳会は、たえず医療水準の向上に努め、職員の各人が誇りと責任を持って働ける職場でなければならないと考えています。



各科年頭所感



眼科 年頭所感

眼科 診療部長

陶山 洋志 ● すやま・ひろし

新年おめでとうございます。

昨年眼科の来院者数は191.5人/日、手術件数は3,822眼/年でした。

年々眼科外来を受診される患者様は増加傾向にあります。昨年も検査機器の増設を行い、待ち時間の緩和に努めました。眼科外来にある診療機器は、可能な限りLAN(Local Area Network)でファイリングシステムに接続されデータを自動転送できるようになっています。これらのシステムは迅速な診断と治療に大きく貢献していますが、旧来の機器でLAN接続できない機器もあり改善が必要と考えています。

黄斑変性症などの眼底疾患は診断・治療が近年最も発達した分野です。

昨年は光干渉断層計(OCT:Optical Coherence Tomography)や眼底検査装置(HRA2:Heidelberg Retina Angiograph 2)等を最新の機種に変更し、さらに高精度な診断・治療が可能となりました。また、手術は傷口が小さくなる傾向にあります。小さな傷口から行う



(前列左から)陶山部長、藤原会長、森井医長
(後列左から)宍田副部長、三浦医長

手術は術後の早期回復を可能とします。当院で行う白内障手術・硝子体手術もバランスのとれた小切開手術に変化してきています。手術件数も増加傾向にありますので、手術設備機器の拡充にも配慮します。治療には時としては痛みを伴うこともありますが、個々の治療において痛みを軽減できる機器も開発されてきていますので、導入に努めて行きたいと思います。

本年度も診療をより充実した内容に改善できるよう、機器と人員の補充を行うとともに職員の能力を向上させたいと考えています。病院に来院された皆様が満足していただけますよう努力しておりますので、よろしくお願いいたします。



総合診療科 年頭所感

総合診療科内科系 診療部長

和田 謙 ● わだ・けん

明けましておめでとうございます。良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、新型インフルエンザという未曾有の疾患流行を迎えて、その対応に追われる1年でした。当院は、産科が併設されていることもあり、外来からの院内へのインフルエンザ持ち込み阻止にはいっそうの努力を必要としましたが、普段から感染防止意識をもった職員が一丸となって対応することによって、大きな被害もなく越年できたことは誇りに思います。年末からはワクチン接種も開始されていますが、本年もまだしばらくは油断することなく感染予防や治療に当たっていきたくと考えています。

一方、当科の診療に関しては昨年6

月から、消化器内科の三宅医師による診療と内視鏡検査が始まり、内視鏡検査数が大幅に増加しました。さらに血管外科の金澤医師による下肢静脈瘤手術も予約待ちの方が増えてきたため、本年は手術枠を増やして対応を検討中です。本年もいっそう安全性に留意しながら、検査や手術の要望に応えていきたいと考えます。

今年の当院のスローガンは、「見直し」ですが、昨年は政権交代という歴史的な出来事もあり、本年は医師・看護師不足、臨床研修制度、医療費財源確保、地域医療の確保等の多くの医療問題についても大幅に見直されるのではないかと考えられます。それが、われわれ



(前列左から)和田部長、早川部長
(後列左から)杉本医長、三好参与、三宅医師

の業務にどのような影響を及ぼすかはわかりませんが、本年も総合診療科医師が一丸となって、地域の医療を支援しながら、地域に密着した良質の医療を提供していきたくと思っています。

産婦人科 年頭所感

産婦人科 診療部長

菅原 正人 ● すがはら・まさと



明けましておめでとうございます。

減少が続く産婦人科の医師数が昨年、10年ぶりに増加したことが厚生労働省の医師調査でわかりました。同省保健統計室は「若い研修医が深刻な不足状態に危機感をもち、産科医を選んだためではないか」と言っているそうです。本当でしょうか？

とりまく状況を列挙してみると…、医学



(前列左から)田中医長、藤原理事長、三村副院長
(後列左から)菅原部長、野原院長

生に「産科は訴訟リスクが高い」「労働環境が劣悪」「世界最高レベルの医療環境が整っていても、過失により母子に障害等を与えれば逮捕される可能性もある」などの認識が浸透した。／男性産婦人科医を嫌う患者があり、男性が産科医を目指さなくなる風潮が生まれた。／35歳以下では女性が産婦人科医の多数を占めるが、自己の妊娠・出産・育児に対するサポート体制が確立されていないため、離職を強いられることがある。／分娩を扱わず婦人科のみや不妊症クリニックに、あるいは他科に転向する例が増えた。逆はほとんどない。／臨床研修の必修化により、憧れのみで産婦人科に入局するものが無くなった。昔

は訳がわからず勢いで入局し、後悔しても律義さから途中で辞めることはできなかったものである。／新生児の置き去りや診療費の踏み倒しなどの妊婦側のモラル低下が産科医の減少を助長している…、など。

このような要素が解決したとは思えないので、逆張りの発想で入局する人もあるかもしれませんが、産婦人科医の増加がトレンドにはならないでしょう。当院では、理事長、院長以下、状況改善のため全力を尽くして、年間1,000例を超える分娩を取り扱っており、大健闘と自負しています。医師の高齢化でいつまで続くかわかりませんが、今年も安全第一でがんばっていきたいと思います。

あさぎりこどもクリニック

あさぎりこどもクリニック 院長

吉形 真由美 ● よしかた・まゆみ



皆様、新年明けましておめでとうございます。あさぎりこどもクリニックが昨年8月に診療を開始し、早5ヶ月が経過いたしました。

昨年は日本だけでなく全世界で新型インフルエンザの流行がみられ、12月からはその予防接種も開始となりました。このように小児科診療にとっても、従来に加え新しい対応が要求される中での診療開始でしたが、幸いスムーズに診療が行えております。また徐々に受診して下さる方も増加しており、地域の皆様の中であさぎりこどもクリニックの存在が根ざしつつあることが実感でき、温かいご支援とご支持のおかげと感謝しております。

しかし、まだ「あさぎりこどもクリニックと

はどんなところか?」と思われる方も多くいらっしゃると思いますので、改めてクリニックの紹介を簡単にいたします。

当クリニックの診察の特徴として、まずは2診体制があげられます。診療所ではありますが、女性の小児科医が2名おり、2つの診察室で同時に診察を行うことで待ち時間を少なくし、患者様や子ども連れのご家族の時間的な負担を少なくするよう心がけています。

隔離診察室・隔離待合室を設けることで、待合室での患者間での感染拡大を空間的に予防するような工夫もしています。また感染予防対策の一環として予防接種・乳児健診は一般診察時間と分け、時間的な感染予防対策も行っております。

このように安全で確実な診療を行い皆様の信頼を得られるよう努力するだけでなく、どうすれば受診されるお子様やご家族に安心を提供できるか、快適に受診していただけるか、お子様の病院に対する恐怖心や嫌なイメージをなくせるか、などについても力を注いでいきたいと考えております。皆様、今後も何卒よろしく願いいたします。



(前列左から)吉形院長、藤岡副院長

明石市医師会健康づくりシリーズのシンポジストとして

平成21年12月3日に、明石市民会館中ホールにて明石市医師会主催の「21世紀の健康づくりシリーズ」のシンポジウムが開催されました。今回のテーマは「脳卒中」で、治療、リハビリ、食生活で各々の分野を専門としている医療スタッフが講師として招かれ、来場者に講演しました。食生活については私が担当で、最後にお話いたしました。この講演を依頼された時は、市民の皆さまに食生活についてお話させていただく機会

を与えられうれしく思いました。しかし限られた時間で話の内容を理解していただくには、どのような資料を作れば良いのかを考え、退屈させないようなものに仕上げるのに苦労しました。会場はほぼ満席で、皆さまの関心の高さに驚きました。

閉会后、数名の来場者から私の講演に対して感謝のお言葉を直接頂戴しました。この貴重な体験を胸に明日からの日常業務に臨み、今後も皆さまに十

栄養管理室 室長(明石地区病院栄養士会会長)

近藤 恭弘 ● こんどう・やすひろ

分応えられるお話をまたどこかでできればと思っています。



第51回全日本病院学会鹿児島大会参加報告

平成21年11月21・22日、鹿児島市で開催された「第51回全日本病院学会鹿児島大会」に7名で参加して来ました。この学会は、全国の病院から集まった多職種が各職場で取り組んだ活動を報告し合い、今後の活動に生かしていくという目的のものです。

昨今高度な医療機器が開発されています。その医療機器をより安全・安心して使用し、適切に管理するには、医療機器管理ソフトの運用が必須です。当院では市販の医療機器管理ソフトを購入せず、に医療機器管理ソフトを開発し、当院独

自の機能を持たせ運用しました。他病院の方にも参考にしてもらえたらと思い「医療機器管理ソフトの開発・運用」を発表しました。

また当院から他に、鳥居医事課係長が「分娩費用設定のための医事課によるアプローチ」、田中管理栄養士が「栄養指導における食事記録のデジタル化による効果」を発表しました。

この学会で発表される研究テーマは学術的な内容というよりも様々な工夫やサービス方法でした。当院の理念である『安全な医療サービスを提供する』に

臨床工学技士

赤穂 博学 ● あこう・ひろたか

則って行っている他の取り組みや工夫事も、十分研究テーマに値すると感じました。これからも院内で様々な立案・工夫・実施し、こういった目には見えないサービスを活かしていきたいと思えます。



総合消防訓練 実施レポート



事務長

藤井 博司 ● ふじい・ひろし

平成21年10月22日に84名の職員が参加して総合消防訓練を実施しました。今回はあえて平日の日中に火災が発生したとの想定で行いました。すべての部署において避難誘導、搬送、救護などの役割を実際の職種に応じて設定し、それぞれがどのような行動をするのか考える必要があったため、約1ヶ月前から事前準備に取りかかりました。

本番当日、手術室を火元として、訓練が開始されました。手術中の患者の応急処置、シーツに載せてアンビューバッグを使用しながらの搬送(写真①)。その他の現場でもそれぞれ決められた避難経路を使っての避難が行われ、設置された対策本部のブルーシートの上で、手際よく処置が行われていきます(写真②)。一方、建物内では逃げ遅れた患者や職員がいないかを責

任者が最終確認していききました。

前回までの反省を活かして事前にミーティングを重ね準備し、全部署参加で真剣に実施できたと思えます。今回の結果を次回以降の訓練に活かしていきたいと思えます。

▼消防訓練の様子



写真① 手術室からの患者搬送



写真② 避難した患者を処置する職員

第4回あさぎり周産期カンファレンスを開催

あさぎり周産期カンファレンスは、平成18年にスタートし4回目を迎えました。日頃お世話になっている近隣の産婦人科、小児科の先生方を当院にお招きして、情報交換の場として利用させていただいています。例年、症例報告と講演がプログラムの中心で、神戸大学や西神戸医療センター、兵庫県立こども病院の先生方から最新の周産期治療をご指導いただいています。平成21年は6月に計画していましたが、新型インフルエンザの流行のために9月5日に延期し

て開催されました。

今回の内容は、症例報告が「正常な妊娠経過の後、突然発症した子癇発作、HELLP症候群の2症例」と「新型インフルエンザ対策—産婦で発症した症例を経験して—」、講演は兵庫県立こども病院新生児科の溝淵医長(写真)による「新生児科から見た後期早産児の管理」でした。また、あさぎりこどもクリニックの吉形院長から開院の挨拶もありました。2時間ほどの短いカンファレンスでしたが、参加された先生方から「大

副院長

三村 治 ● みむら・おさむ

変勉強になった」との感想をいただきました。本年も興味ある内容で開催したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。



第2回眼底読影勉強会を開催

去る11月21日に、ドリームドームで第2回目となる「眼底読影勉強会」を開催いたしました。講師に、金沢大学医薬保健研究域医学系内講師の大久保真司先生をむかえ、緑内障などの視神経疾患についての眼底読影のポイントについて教えていただきました。近隣の眼科の先生も多数ご参加され、総勢18名の会となりました。

今回の勉強会のポイントは「視神経所見」「視野検査」「視神経解析検

査」を総合的に判断し、緑内障とほかの疾患(近視性視神経萎縮や視神経低形成など)との鑑別を行うことです。視神経疾患は難しいものが多いのですが、大変勉強になりました。意見交換会では活発な意見が交わされ、直接講師の先生に質問もでき、有意義な会となりました。盛会のうちに終了することができ、ご参加いただいた先生方からもご好評でした。

人間ドックなどで指摘される「視神

眼科医長

森井香織 ● もりい・かおり

経乳頭陥凹拡大」は、緑内障の可能性もあります。当院にはOCT(光干渉断層計)をはじめ様々な検査機器があり、それらを活用することで非常に精度の高い診断ができます。紛らわしい症例などは当院のOCTなどを用いた視神経解析なども活用いただければと思います。

今後も勉強会を開催し、最新の検査機器を活用し、よりいっそう専門的な治療を行っていきたいと思います。

第1回あさぎり地域連携カンファレンスを開催

平成21年11月26日に日ごろ患者様や検査の紹介に関して交流のある近隣の内科の病院および開業医の先生方をドリームドームにお招きして、第1回あさぎり地域連携カンファレンスを開催しました。会の設立の目的は、普段電話や手紙でしか接する機会のない近隣の開業および病院の先生方と顔の見える交流を行うことによって、より交流を活発にし、また、医学知識の向上をはかることです。

記念すべき第1回は、当院放射線科の土井室長による「当院における

CT、MRI検査の予約方法の説明」と、私から「あさぎり病院および総合診療科の紹介」「高血糖状態が劇的に改善し、インスリンより離脱した当院に入院された糖尿病患者様の症例提示と文献的考察」を行いました。その後特別講演として遠く北海道・帯広よりお招きした自由が丘横山クリニックの横山宏樹院長に「糖尿病治療の実践について」をご講演いただきました。総合診療科としては引き続きこのような会を開催していきたいと思っておりますので、この場を借りまして協

総合診療科 内科医長

杉本 裕 ● すぎもと・ゆたか

力いただいた方々にお礼を申し上げますとともに、第2回のカンファレンス開催の際のご協力をお願いいたします。



部署だより 2階病棟

母児ともに健やかで、感動のあるお産をしていただくために

2階病棟は、産婦人科を中心とした病棟で、眼科を含め50床を擁しています。特に産科は分娩数が兵庫県下でも上位のレベルになり、名実ともに妊産婦さんに選ばれる病院に成長いたしました。理事長、院長を含む5人の超ベテラン医師、17人の助産師、11人の看護師が昼夜を問わずその業務に励んでおります。

スタッフ一同、元気な産声とご家族の幸せな表情に出会うことが何よりの喜びです。



2階病棟 師長

天本 都 ● あまもと・みやこ

産科病棟

毎月約90件の分娩があり、平成21年も1,000件を超えるかけがえない生命の誕生がありました。万全を期した見守りの中、新しい命を迎えていただけるよう、産婦に寄り添い支えるケアを心がけています。出産後は個別性を踏まえた看護を行うことで、育児に対する不安の軽減に努めています。また、電話相談や助産師外来など保健相談を充実させるとともに、健診結果からあさざりこどもクリニックと連携するなど、継続した

看護が行えるよう努力しています。
(2階病棟助産師 川崎 洋子)



新生児室の様子

一般病棟

主に卵巣嚢腫や筋腫の婦人科疾患、切迫早産、眼科白内障の患者様が入院されています。婦人科は腹腔鏡など全身麻酔下の手術が多く、定期的な体位交換の徹底など、二次的合併症の予防に努めています。術後は、硬膜外麻酔の管理などを含み、痛みのコントロールに細心の注

意を払っています。婦人科、眼科ともに入院期間は5～8日と短く、日々時間に追われてはいますが、努めてカンファレンスを行い、安心して退院していただけるよう忙しい中でも丁寧な看護を心がけています。
(2階病棟看護師 檀上 智)



看護師による申し送りの風景

病棟一丸となり、医療安全を推進しています！

「医療は安全であることが基本」を大前提に、毎月テーマを決め、勉強会を実施しています。分娩時の大出血や胎児仮死兆候など、異常事態の対応能力を高めるため緊急時訓練を実施し、迅速な帝王切開の準備など技術面の向上を図っています。

2年前よりヒヤリ・ハットの分析を行い、システム的な改善に取り組み成果をあげています。これからも努力を惜まず、妊産

婦様、患者様に愛され、安心して選んでいただける病院であり続けたいと思います。



勉強会の様子①



勉強会の様子②

満員御礼!

第17回夢祭り

ご参加ありがとうございました!!

平成21年11月4日～7日の4日間にわたり、地域交流イベントである第17回夢祭りを開催しました。

今回はあさぎりこどもクリニック(ドリームドーム)開設に伴い、あさぎり病院とドリームドームの両方を会場として、さまざまなイベントを行いました。天候にも恵まれ、多くの方に参加していただくことができ、職員一同ほっとしております。今年の夢祭りにも、どうぞご期待ください。

総務課

小林和義 ● こばやし・かずよし

3日間入れ替わりで演奏者をお招きするフロアコンサートでは、どの日も会場である待合ホールが満席状態でした。また最終日の健康教室では、アンチエイジングをテーマに当院の各診療科医師がそれぞれ講演を行いました。たくさんのご参加をいただき、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

夢祭りの締めくくりは院長をはじめ病院職員による音楽の集いです。その他、健康相談や体験健診、体験ヨガ教室も盛況に終えることができました。



フロアコンサート①
初日の演奏者は大正琴の福本裕美さん



フロアコンサート②
2日目は陽気なハワイアンバンド、ラニカイシルバース



フロアコンサート③
フロアコンサート最終日はフルートの本庄ちひろさん



健康教室
講演後の質疑応答も活発に行われていました



音楽の集い
イベントでは欠かせないあさぎり病院管弦楽団による演奏

イベント案内

■妊娠期の食事を味わう会(要予約)

日時 2/23(火)、3/23(火)
12:30～14:45
場所 2階多目的ホール(食堂)
参加費 1,050円
内容 食事を味わいながら、妊娠期の食生活のポイントを紹介

※予約メ切は1週間前です。産婦人科外来にある申込用紙に記入してお申し込みください。なお、開催6日前以降のキャンセルや当日不参加の場合、参加費用をご負担いただきます。

■マタニティビクス・ヨガ(要予約)

日時 ヨガ/毎週火曜 13:30～14:30
ビクス/毎週木曜 13:30～14:30
場所 「あさぎりこどもクリニック」2Fホール
参加費 1,000円
内容 プロのインストラクターによる妊娠期のエクササイズ指導

※キャンセルは、前日午前中までにお電話いただくか、産婦人科外来受付に直接お申し出ください。なお開催日の前日12:00以降のキャンセルについては参加費用をキャンセル料としてご負担いただきます。

■母親教室(要予約)

日時 第1水曜【妊娠初期対象】
第2・3・4水曜【妊娠後期対象】
14:00～16:00
場所 「あさぎり病院」2F多目的ホール(食堂)
参加費 無料
内容 医師・助産師・管理栄養士による当院でのお産についての説明及び病棟案内

■のほほんママの会(要予約)

日時 2/12(金)、3/12(金)
14:00～15:30
場所 2F多目的ホール(食堂)
参加費 無料
内容 当院で出産されたお母さま・お子さまの交流会

ほかにも、院長をはじめスタッフによる「フルーツコンサート」や「健康教室」「お薬相談会」など、さまざまなイベントを開催しておりますので、お気軽にご参加ください。